

比較家族史学会
会報 比較家族史 67

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

学会事務連絡先 大学生協学会支援センター内 比較家族史学会

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 TEL. 03-5307-1175 FAX. 03-5307-1196

E-Mail: hikakukazokushi@univcoop.or.jp 郵便振替 00130-4-25222

2016年 比較家族史学会第60回 秋季研究大会のご案内

【日程】2016年11月19日(土)

【会場】筑波大学東京キャンパス文京校舎134講義室(階段教室)
 (東京都文京区大塚3-29-1)

【参加費・申込み】会員1,000円、一般1,000円、学生は無料・事前申込不要

【プログラム】

10:30~10:40 会長挨拶 森 謙二 (茨城キリスト教大学)

10:40~11:20 自由報告 司会: 中込睦子 (筑波大学)

阿部友香 (京都大学)

「昭和期前半の農業奉公と障害者—山形県庄内地方を事例に」

11:20~13:00 休憩

13:00~16:50 ミニ・シンポジウム

「沖縄の「家」の記録と継承—家譜・墓・仏壇から考える—」

13:00~13:10 武井基晃 (筑波大学) 趣旨説明

13:10~13:40 武井基晃 (筑波大学)

「先祖の歴史への関心と期待—家譜の分析と仏壇の新設—」

13:40~14:10 山城彰子 (南城市教育委員会)

「系図家譜からみる婚姻・出産・離別

—女性に焦点をあてて—」

14:10~14:40 鈴木 悠 (那覇市歴史博物館)

「近世琉球における銘書の受容と展開について

—浦添市内出土の墓誌銘(銘書)の分析を通じて—」

14:40~15:10 越智郁乃 (立教大学)

「お墓の引っ越し

—現代沖縄における墓制と祖先祭祀の継承—」

15:10~15:20 休憩

15:20~15:30 小池 誠 (桃山学院大学) コメント①

15:30~15:40 森 謙二 (茨城キリスト教大学) コメント②

15:40~16:50 討論

16:50 副会長挨拶

【ミニ・シンポジウム趣旨】

「沖縄の「家」の記録と継承」と題する本シンポジウムでは、琉球・沖縄の家譜・墓・仏壇について、近世の実態と近代を経て今日に至る現状までを読み解くことを試みる。そこで共通する課題は、家の歴史を記録しようとする「主体」とその「意思」への着目、そして過去の歴史と継承が今日に与え続ける影響の分析である。

本シンポジウムの4人の登壇者は、いずれも琉球・沖縄の家を対象に研究を進めており、その成果を持ち寄って、今回は民俗学・文化人類学・史学の枠組みを越えて議論したい。また、大学の所属の研究者だけでなく、沖縄の博物館や市史編さん室に所属する研究者も登壇することで、琉球・沖縄の歴史と今日に対して、多様な現場で活動する研究者による発表と討論の場を目論む。

15世紀に琉球王国が誕生したが、1609年には薩摩藩の支配下に入る(近世琉球の始まり)。1689年には王府に仕えていた譜代の家臣に対して家譜の提出が求められ制度として「士族」が成立した。1879年、450年続いた王国の廃止を経て近代沖縄に至り、1899年に日本の明治民法が施行されると近代日本的な家制度が導入された。沖縄戦を経て米軍占領下に入るが、その間も明治民法が日本本土よりも9年長く適用され、1957年に日本の新民法と同内容に改正された。しかし、男が家も財産も位牌も墓も一括して継ぐべきとされる考えは継続し、1972年の復帰後の1980年に「女が継いでなぜ悪いのか」という新聞紙上での特集を契機に「トートーメー(位牌)論争」と称される女性の位牌継承をめぐる社会的議論が起きた。この問題は今なお続いている。

以上のような背景をふまえて、まず武井は「家譜を通じた先祖への関心」について取り上げる。琉球王府時代の士族家譜という先祖の歴史資料に対して子孫がどのような関心や期待を抱き、子孫としていかなる義務を果たしてきたか、最近行われた元祖の仏壇・位牌の新設や、調査者と子孫の団体(門中団体)の協働と合わせて論じる。次に、山城は、「家譜に記録された女性」に焦点をあてる。家譜に記録された女性の婚姻・出産・離別の分析と、今日の沖縄県における女性の生活実態、男女共同参画社会づくりに関する県民意識などの調査をふまえ、県内に暮らす50代～80代の女性が位牌継承についてどのような考えを持っているか論じる。武井が家譜に記された男性の記録、山城が女性の記録というように分析を補完し合いながら、家譜に記録され、仏壇や位牌に表象される家族史を論じていく。

続いて、鈴木は「墓の記録」について検討する。沖縄島中部に位置する浦添市より出土した墓誌銘(銘書)の分析から、近世琉球における墓誌銘を記す習俗の実態とその受容のあり方について、都市の近郊と農村部との歴史的な比較を試みる。そして越智は、「墓の引っ越し」に注目する。沖縄各地から本島中南部都市部に集住する人々は、移住先でも何らかの形で祖先祭祀を継続している。やがて「墓の引っ越し(=新造墓と改葬)」を選択した人々が「故郷」からの「逸脱」という葛藤を抱えて新しい墓を造りあげる過程を通じて、現代の祖先祭祀と墓制について考える。鈴木・越智両者とも都市部と農村・離島などの間での移動・展開を比較検討することで、それぞれが対象とする時代における家と墓のあり方を描くことを目指す。

以上の家譜・墓・仏壇についてのそれぞれの成果をふまえた討論を通して、今日の沖縄の家の記録と継承をめぐる問題と実態を明らかにするとともに、比較家族史の論点から議論を深め家族像の再検討を目的とする。(文責：武井基晃)

【会場アクセス】

丸ノ内線茗荷谷（みょうがだに）駅下車「出口1」徒歩5分程度

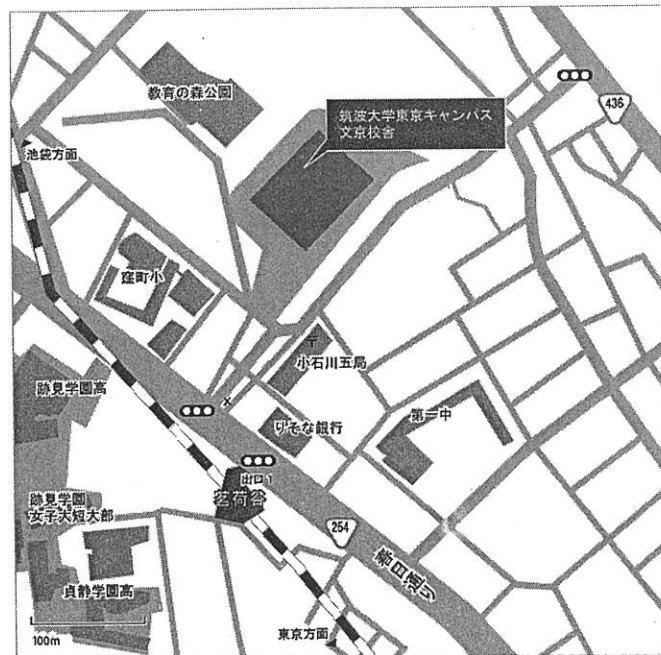
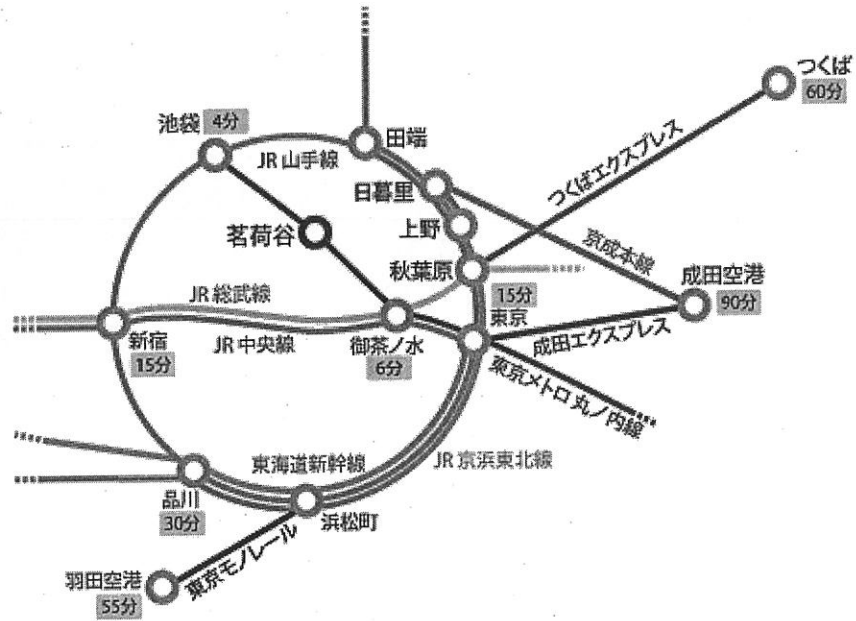
http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

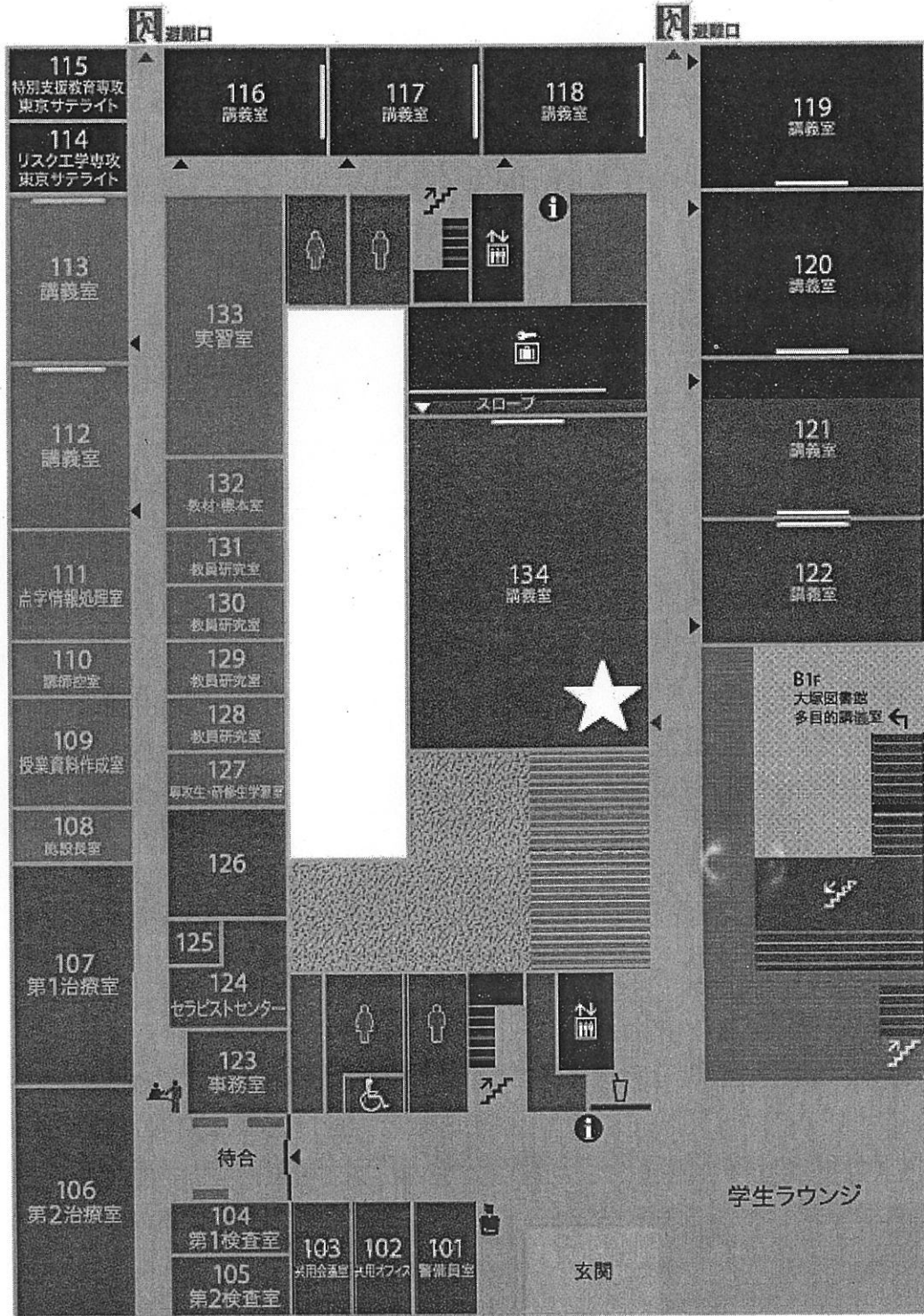
【昼食】大学周辺、茗荷谷駅周辺に何軒かお店があります。

【託児サービス】大会運営委員会では斡旋しません。

【大会運営委員】中野泰（筑波大学・委員長）・武井基晃（筑波大学・シンポジウム担当）・
中込睦子（筑波大学）・平井晶子（神戸大学）・森本一彦（高野山大学）

経路図





会場は、筑波大学東京キャンパス文京校舎の1階
 134講義室（上図☆印。玄関を入れて直進、すぐ
 の階段教室）

【春期理事会 議事録】

【日 時】2016年6月17日

【会 場】近畿大学

1、会長挨拶

2、企画委員会 平井委員長より報告

シリーズ刊行の計画…第1巻は、2017年の8月刊行を予定

次回のシンポジウムに日本経済評論社の編集担当の梶原氏が参加可能とのことであるという報告がなされた。

シリーズの名称の検討

当初案「家族研究の最前線」であったが、森会長よりシリーズの構成が変わったこともあり、「比較家族史学会叢書」としては、どうかという提案があった。出版社の販売戦略もあるので、当初案のようにシリーズ名を付したほうがいいのではないかという議論となった。本理事会としては「比較家族史学会叢書」として、その後ろに副題としてシリーズ名を付すことが望ましいとの結論に至った。今回のシリーズは「比較家族史叢書—家族研究の最前線」とする。このようにすれば、今後、会として第2期以降の展望も確保できるとの意見が出された。今後、日本経済評論社との話し合いを行ない、シリーズ名を確定する予定。

第2巻は山田昌弘、平井晶子の二名が編集担当となることが報告された。

3、秋季大会について

中野泰（委員長）、武井基晃（シンポ担当）、中込睦子、平井晶子、森本一彦で運営委員会を結成し、11月19日に筑波大学東京キャンパスで行うことが決定した。

ミニシンポジウム（「沖縄の『家』の記録と継承～家譜・墓・仏壇から考える～」）と自由報告を行なう。なお、理事会は昼休み中に行うこととする。

4、2017年大会の予定

2017年は早稲田大学の小島理事を運営委員長として、小山理事がシンポジウム担当として6月17、18日に開催する予定である。会場については、現在小島理事が大学当局と折衝中であるとの報告がなされた。

小山委員から、「子供と教育」をテーマとするシンポジウムの開催趣旨と現時点での発表者と仮のタイトルが報告された。シンポジウムは2部構成をとり、第1部は「近代家族ではない家族における子供と教育」、第2部は「近代家族が抱え込む困難・問題」とすると報告された。

理事会で検討した結果、今後、第1部の問題について報告ができる東南アジアとアメリカ大陸をフィールドとする研究者を募る予定である。なお、報告者とタイトルが確定した段階で、今一度シンポジウムの構成を再考し、3部構成とする可能性があるとの意見が示された。12月中に準備会を行なう予定である。

5、庶務委員会 八木副会長より報告

八木副会長より会計報告が行われ、高木監査からの会計監査と意見書が提示された。

監査意見書では会計処理の健全化のため、本会からの支払い時期を明確化していく必要があるなどの課題が提示された。また、学会事務センターへの支払いの基準となる会員数がどの時点で計算が行われているのかが、あいまいであり、今一度、確認する必要があるという意見が出された。

本理事会の任期が2017年6月までであり、次回の春季大会で新理事会を構成するため、理事選挙を行なう必要がある。秋季大会後には選挙管理委員会を立ち上げる必要があるとの報告が行われた。

6、編集委員会 堀田副委員長より報告

『比較家族史研究』30号の刊行予定、31号の編集状況について報告が行われた。31号では、2015年度秋季大会でのシンポジウムを特集として掲載する予定である。なお、31号の投稿の募集、書評・文献紹介の対象書について8月末を締切として募集をかけるとの報告があった。募集についてはホームページ上に情報を掲載することを決定した。

弘文堂の浦辻氏が編集業務から退くことになり、初稿戻し以降の作業を編集委員長と三美印刷との間で実施する体制へと移行したことが報告された。

査読規定と査読報告書の書式規定などについての審議が行われ、査読規定をホームページ上で公開することを決定した。

以上

【2017年度春季研究大会のご案内】

来年度の春季研究大会を2017年6月17日(土)・18日(日)に早稲田大学において開催する予定です。「子どもと教育」をテーマに2日間にわたりシンポジウムを行います。大会運営委員会は小島宏先生を中心に組織し、シンポジウムは小山静子先生を中心に企画していただいています。皆様万障繰り合わせの上、ぜひご参加ください。

【比較家族史学会監修 家族研究の最前線① 出版のご案内】

比較家族史学会監修の新シリーズ<家族研究の最前線>の出版がようやく始まりました。学会の再活性化・若手の育成をめざし、5巻のシリーズとして日本経済評論社から出版を準備しています。

その第一巻『家と共同性』(2015年春季大会のまとめ)が9月15日に出版の運びとなりました。出版事情の厳しい折でもありますので、予定どおりの出版遂行のためにも、学会の活性化のためにも、ぜひとも会員みなさまには積極的に「購入」していただくことでご協力いただきたいと思います。案内ならびに申込書を同封しますので、なにとぞよろしく願いいたします。